

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【公表番号】特表2004-521636(P2004-521636A)

【公表日】平成16年7月22日(2004.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2004-028

【出願番号】特願2002-584721(P2002-584721)

【国際特許分類】

A 2 3 K 1/10 (2006.01)

A 2 3 K 1/16 (2006.01)

A 2 3 K 1/18 (2006.01)

A 2 3 K 1/20 (2006.01)

【F I】

A 2 3 K 1/10 Z

A 2 3 K 1/16 3 0 3 D

A 2 3 K 1/18 A

A 2 3 K 1/20

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年6月25日(2007.6.25)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

チャックと、透明なゲル化ソース又はベースとを含有するペットフード組成物において、該組成物が

i) 食肉及び食肉以外の有用部分を含有する混合物に、半精製カラギーナンを組み入れる工程であって、該混合物を前記チャックを製造するために使用する該工程と、

i i) 前記の製造されたチャックを、ローカストビーンガム、グアーガム、カシアガム、カロブガム及びコンニャクガムのうちの少なくとも1種のガムを含有し、且つ、該少なくとも1種のガム以外のゲル化剤を含有していないソース又はベースと混合する工程と、

i i i) 前記チャックから前記ソース又はベースの中に前記半精製カラギーナン中の純粋なゲル化剤分子を放出する条件の下、前記混合物を処理して、該ソース又はベースをゲル化してチャック構造体を達成し、前記半精製カラギーナンの中に存在するセルロースを前記チャック構造体の中に沈降させる工程と、

によって得られる上記ペットフード組成物。

【請求項2】

半精製カラギーナンが、全重量に基づき10重量%までの量で含有されている、請求項1に記載のペットフード組成物。

【請求項3】

食肉及び食肉以外の有用部分を含有する混合物の中に、少なくとも1種のオリゴ糖又はオリゴ糖ブレンドが更に組み入れられている、請求項1又は2に記載のペットフード組成物。

【請求項4】

オリゴ糖が、キシロース、ガラクトース、グルコース、フルクトース、マンノース、スクロース、又は他の還元性ペントース若しくはヘキソース、又はそれらの組合せである、

請求項 3 に記載のペットフード組成物。

【請求項 5】

チャンクが、全重量に基づき 40 重量%～60 重量%の量でソースと混合されているか；又は、チャンクが、全重量に基づき 10 重量%～50 重量%の量でベースと混合されている；請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のペットフード組成物。

【請求項 6】

チャンクと、透明なソース又はベースとを含有するペットフード組成物を調製する方法において、

i) 食肉及び食肉以外の有用部分と、半精製カラギーナンとを含む食肉混合物を調製する工程と、

i i) 前記食肉混合物を使用して食肉チャンクを製造する工程と、

i i i) ローカストビーンガム、グアーガム、カシアガム、カロブガム及びコンニャクガムのうちの少なくとも 1 種のガムを含有するソース又はベースを、前記少なくとも 1 種のガム以外のゲル化剤を添加することなく調製する工程と、

i v) 前記食肉チャンクを前記ソース又はベースと混合して、容器に充填する工程と、

v) 前記の容器及び内容物を加熱して、該内容物を殺菌し、前記半精製カラギーナンの中に存在するセルロースを前記チャンクの中に沈降させる工程と、
を包含する、上記調製方法。

【請求項 7】

食肉混合物の中に、少なくとも 1 種のオリゴ糖又はオリゴ糖ブレンドを更に組み入れる、請求項 6 に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

(発明の概要)

従って、本発明は 1 つの面において、チャンクと、透明なゲル化ソース又はベースとを含有するペットフード組成物において、該組成物が

i) 食肉及び食肉以外の有用部分を含有する混合物に、半精製カラギーナンを組み入れる工程であって、該混合物を前記チャンクを製造するために使用する該工程と、

i i) 前記の製造されたチャンクを、ローカストビーンガム、グアーガム、カシアガム、カロブガム及びコンニャクガムのうちの少なくとも 1 種のガムを含有し、且つ、該少なくとも 1 種のガム以外のゲル化剤を含有していないソース又はベースと混合する工程と、

i i i) 前記チャンクから前記ソース又はベースの中に前記半精製カラギーナン中の純粋なゲル化剤分子を放出する条件の下、前記混合物を処理して、該ソース又はベースをゲル化してチャンク構造体を達成し、前記半精製カラギーナンの中に存在するセルロースを前記チャンク構造体の中に沈降させる工程と、

によって得られる上記ペットフード組成物を提供する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

好ましい具体例において、食肉及び食肉以外の有用部分を含有する前記混合物の中に、少なくとも 1 種のオリゴ糖又はオリゴ糖ブレンドが更に含有されていてもよい。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 0 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 0 8】

実際、意外にも、半精製カラギーナンを使用してゼリー製品中にチャックを調製することが可能であり、しかも、最終製品の中に非常に透明なゲルを得ることが可能であることを見出だした。実際、その組成物を製造している間、半精製カラギーナンのセルロース物質は、熱処理（レトルト処理）を行う間に沈降するものの、濾過材のように作用するチャック構造体の中に保持され、ゲル化分子のみがソース又はベースに放出される。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 0

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 1 0】

このペットフード組成物は、精製ゲル化剤を使用する必要なしにゲル透明度が改善され、しかも、機能性タンパク質を使用しないでチャックの硬さと世界的製品品質とが改善される。

食肉混合物中に半精製カラギーナンが使用されていることは、チャック構造体の中に沈降している半精製カラギーナン由来のセルロースを定性分析することによって検出することができる。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 1

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 1 1】

本発明はもう 1 つの面において、チャックと、透明なソース又はベースとを含有するペットフード組成物を調製する方法において、

i) 食肉及び食肉以外の有用部分と、半精製カラギーナンとを含む食肉混合物を調製する工程と、

i i) 前記食肉混合物を使用して食肉チャックを製造する工程と、

i i i) ローカストビーンガム、グアーガム、カシアガム、カロブガム及びコンニャクガムのうちの少なくとも 1 種のガムを含有するソース又はベースを、前記少なくとも 1 種のガム以外のゲル化剤を添加することなく調製する工程と、

i v) 前記食肉チャックを前記ソース又はベースと混合して、容器に充填する工程と、

v) 前記の容器及び内容物を加熱して、該内容物を殺菌し、前記半精製カラギーナンの中に存在するセルロースを前記チャックの中に沈降させる工程と、
を包含する、上記調製方法に関する。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 2 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 2 6】

本発明によるソース又はベースは、前に定義したゲル網状組織を増大させる如何なるゲル化剤も含有しない。そのソース又はベースは、増粘剤及び／又は安定化剤を含有し、適切なガムは、例えば、ローカストビーンガム、グアーガム、カシアガム、カロブガム及びコンニャクガムである。

次いで、ペットフードは、缶又は他の容器、密閉される容器に充填し、次いで、該混合

物は、純粋なゲル化剤の分子をチャンクからソース又はベースの中に放出する条件の下、加熱処理して、該ソース又はベースをゲル化する。生成物は、通常の方法でレトルト処理を行う。例えば、該組成物は最終的に、従来通り、120～135℃の温度で、20～1000分の間殺菌する。適切な設備は商業的に入手可能である。